

新・産地品種銘柄登場

(7)

普及への期待と展望

食した判断のみで選考す 縣市内で龍の瞳3合パック1袋を680円で販売する「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト大会」では、岐阜県高山市袋ほどの好調な売れ行きを小林達樹さん(龍の瞳を「示した」と話す。

米穀事業者など、県内外に安定した販路を構築しつづける。すでに19年産の在庫の大半は結び付いている状態だ。

また今井さんが打ち出した▽農家所得の向上▽安全でおいしいコメの輸出(日本発環境宣言)▽下呂・飛騨など中山間地域の活性化―など、龍の瞳のコンセプトに共感した生産者が全国各地に相次ぎ、今年から他県での栽培も本格的にスタート。宮城・千葉・静岡・滋賀・香川・愛媛・熊本などでは試験栽培が始まっている。

さらに今年は、経済発展の著しいアジア市場進

岐阜県下呂市で発見・育成されてきた「龍の瞳」(品種名・いのちの舌)が、東海地域を中心に全国で注目されている。粒の大きさがコシヒカリの1.5倍はあるという際立った形質を持つほか、食味は全国規模のコンクールで最上位に輝いた。19年産からは岐阜県の産地品種銘柄にも設定されており、とりわけ栽培の

中心地・飛騨地域の活性化でも期待が大きい。今年の特徴は粒の大きさであり、玄米千粒重は約32年(約54粒)の作付けを予定しており、前年(31年)と比べてほぼ倍増。現地生産を視野にアジア市場への進出も計画している。

食味評価高い大粒米

コシヒカリの約1.5倍にもなる。

龍の瞳は平成12年、下呂市の稲作研究家・今井隆さんが自家圃場のコシヒカリの稲の中から偶然発見し、育成してきた突然変異種。品種名は「いのちの舌」で、龍

ち取った。こうした受賞ニューズ等が各種メディアで取り上げられたことに加え、その食味がロコミなどで広まり、地元を中心に大口顧客では、下呂市内の観光ホテルや料亭を4分の1の値引き使用基準を設けている。でき

「いのちの舌」

米代表)では、一般の顧客数がここ1〜2カ月で300件以上増加し、1は減農薬が基本。10坪当たり窒素4kg以下、農薬5成分以下(会員により慣行栽培の3分の1から4分の1)の厳しい使用

出に向けた準備も進めていく。台湾、韓国、中国では、日本産を輸出するド、米国などへの進出も検討したい考えだ。



一般顧客が増えている「龍の瞳」